

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	130人	算数	130人	理科	130人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	120人	算数	120人	理科	120人
------	----	------	----	------	----	------

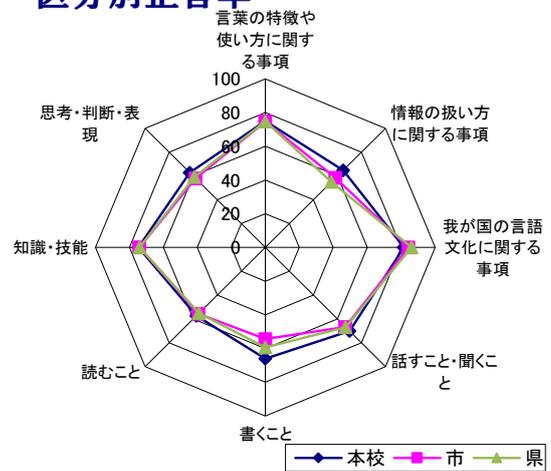
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	75.0	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	64.8	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	70.2	66.7	66.9
	書くこと	66.0	54.3	59.3
	読むこと	57.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	74.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	62.8	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

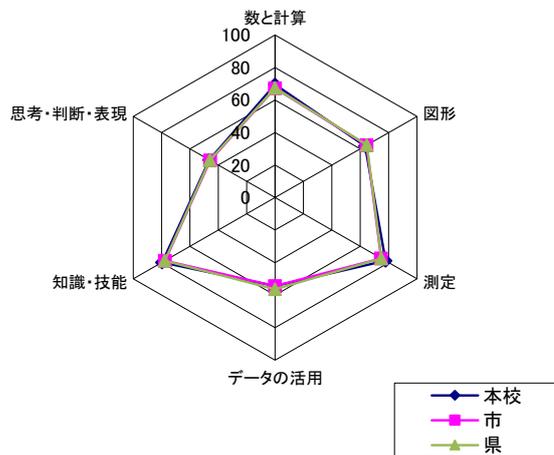
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の読みは特によくており、90%を超える正答率である。日頃の音読や読書の成果が表れている。</p> <p>○ローマ字に関する問題については県の平均を大きく上回る結果となり、日頃からタブレットを活用したり、タイピングの練習に意欲的に取り組んでいる成果が表れている。</p> <p>●主語と述語や語彙に関する問題では、県の平均を下回った。</p> <p>●漢字の書きは、県や市の平均をやや下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字オリンピックや50問テストなども活用し、漢字練習を繰り返し行いながら、しっかりと定着できるようにする。 ・主語・述語のきまりを繰り返し復習する。 ・宿題等で言葉の基礎・基本の問題練習などに取り組んだり、日記を書かせたりして語彙の習得や構成を考えた作文が書けるようにする。
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や県も平均を上回っている。</p> <p>○国語辞典の使い方に関する問題では、県の平均を大きく上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も日常的に国語辞典を使う場面を意図的に増やし、国語辞典の使い方をさらに定着させるようにしたい。
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字のへんやつくりに関する問題は、正答率が県の平均とほぼ同じであるが、81.6%ということで定着しているとは言い難い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の学習時に、部首を確認しながらへんやつくりの意味や種類に注目させるようにする。 ・漢字練習の中に部首に関する項目を入れるなど、変化をもたせた漢字練習を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○話し合いの内容を聞き取る問題では、県や市の平均を上回っており、話の中心や話し方の工夫をきちんと捉えることができている。</p> <p>○相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話す問題では、市や県の平均をやや上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりすることを振り返る場を設定し、自分の成果や課題を捉えることができるようにする。また友達と話す練習をする場を設け、聞き手に伝わる話し方を考え実践できるようにしていく。 ・今後も国語の授業で学習してことを実践し、普段から話を聞くときに自分の聞きたいこと、自分の考えをもって聞けるよう、必要なことをメモしたり、質問したりしながら話が聞ける児童の育成に努めたい。
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○自分の考えを明確にして文章を書くことや指定された長さで書くことは市の平均を上回っている。</p> <p>○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことは市の平均を大きく上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も普段から自分の考えを書く活動を意図的に設定し、字数制限なども付けて書く経験を増やしていく。 ・調べ学習等を通して、理由や事例を挙げて書く活動に力を入れていく。 ・日記を書くなど、日常的に自分の考えや気持ちを書く活動を取り入れ、書くことに対する抵抗を無くしていくようにする。
読むこと	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○物語や説明文の内容を読み取る問題は、どちらも県の平均をやや上回っている。</p> <p>●物語文の叙述をもとに文と文のつながりについて捉える問題では、県の平均を下回っており、課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習では、場面の移り変わりと結び付けながら、登場人物の気持ちを考えていくようにしていく。 ・読書活動を充実させ、教科書に出てきた作者の本など、つながりのある本を読み、様々な表現に触れる機会を増やしていく。

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.5	67.3	67.4
	図形	63.4	64.5	64.7
	測定	77.8	74.7	74.9
	データの活用	54.4	54.4	56.4
観点	知識・技能	79.6	77.6	77.8
	思考・判断・表現	46.5	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

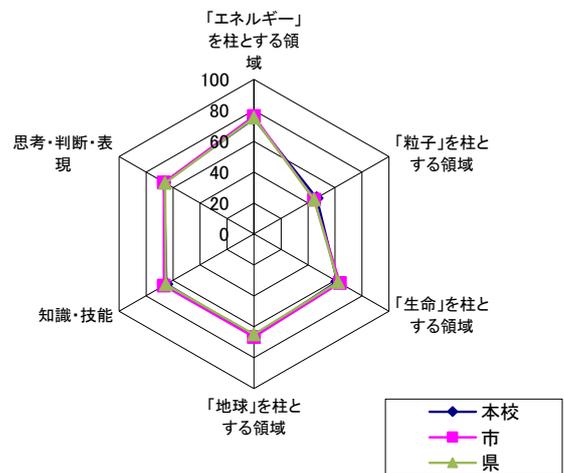
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○分数の表す大きさを答える問題や、整数同士や整数と小数の加法・減法では、市の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●問題場面を口を使った式や図に表したりする設問では、市の平均とほぼ同程度か下回っている。また、余りを切り上げる処理や小数の減法の仕方を説明する設問では、無回答の児童が20%以上おり、言葉で表現することに課題が見られる。</p>	<p>・立式する前に問題場面を把握させ図に表せるようにすることや、図を基に式に表せるようにすることなど、式と図を関連付けることができるよう指導していく。</p> <p>・日々の授業の中で、課題解決の見通しを立て、計算の仕方を考えたり説明したりする活動を充実させる。</p> <p>・3・4年生での学習の復習を取り入れながらつながりを大切にした指導を工夫する。</p>
図形	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○円の性質や二等辺三角形の作図については、市・県の平均正答率をやや上回っており、図形の基本的な知識が身に付いている。</p> <p>●球の性質を利用し長さを求める設問では、市・県の平均正答率を下回る。円の性質を使って正三角形の作図方法を説明する設問では、無回答率が30%以上で図形領域では最も低い正答率であった。</p>	<p>・これまで学習してきた図形の定義や性質を個々として捉えるのではなく、それぞれを関連付けて考えたり、既習事項を生かして新たに考えたりするような応用問題に取り組む機会を増やす。</p> <p>・作図の方法を図形の特徴と関連付けて捉えさせ、半径や辺といった用語を適切に用いながら説明したり確かめたりする活動を充実させる。</p>
測定	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○「重さ」「時間」の設問では、市・県の平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●地図から道のりを読み取って、その和を求める設問では、「道のり」と「距離」の意味理解に課題が見られた。</p>	<p>・時間や長さ、重さなどの量感を確実なものにするために、継続的に指導していく。</p> <p>・身近なものの重さや長さを推察できるようにするために、その量がどの程度の大きさであるか、およその見当を付ける場面を今後も取り入れていくことで、長さや重さの単位のイメージをもたせ、実感を伴った理解を深められるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○棒グラフを読み取り、2場面目に多いスポーツを答える設問では、市・県の平均正答率と同程度で、グラフからデータを読み取ることができている。</p> <p>●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意して読み取る設問では、正答率は20%で課題が見られる。</p>	<p>・調べたものを分類整理して表やグラフに表し、それを用いて考えたことを伝え合う活動を充実させる。また、社会科などで棒グラフがある場合には、そこからどんなことが読み取れるのか考えさせるなど、実生活や学習に生かされているという意識をもって学習できるようにする。</p> <p>・複数の棒グラフを組み合わせたときには、目的に応じたグラフの表し方を考えることができるよう、指導の工夫をする。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.6	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	66.1	66.6	64.9
観点	知識・技能	64.9	66.8	65.4
	思考・判断・表現	66.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○磁石に引き寄せられる空き缶の素材を推測する問題や、実験の結果に応じて記録の表し方については市の平均を上回っている。</p> <p>○鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を考える問題は市の平均を上回っている。</p> <p>●光の進み方、音の伝わり方、金属の性質などに課題が残った。</p>	<p>・鏡や音などは学校生活の中でも児童にとって馴染みのある分野である。授業の導入等で音や鏡に関する事象を取り上げ児童の意欲を向上させると共に習熟を図りたい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○姿勢を変えて測った体重が変化するのか実験結果を基に記述することや粘土の形を変えても重さが変わらないことを理解すること等全ての設問において市の平均を上回っている。</p> <p>●実験結果を基に記述する問題では、市の平均は上回った一方で、無回答の割合も高かった。</p>	<p>・授業のまとめを行う際に穴埋め形式で児童と一緒にまとめを作っていくことやなぜそのような現象が起きたのかをグループの中で話し合わせる活動をより意識的に取り入れていくようにしたい。</p> <p>・粘土や錘など実際に手に取って重さを感じてみたり、測定したりするなどの体験することを通して確かな理解へとつなげていくようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○観察記録として必要な項目を選ぶ問題では、平均正答率も高い。生き物の観察を一年を通して行い、記録する項目を活動前に確認してきた成果である。</p> <p>●ホウセンカの成長の順序や昆虫の体のつくりに関しては市の平均を大きく下回り、課題が残った。</p> <p>●虫眼鏡の使い方についても市の平均を下回った。</p>	<p>・設問の場面絵を順番に並べて回答をするなど、普段のカラーテストだけではなく、授業や朝の学習の時間を活用しながら様々な出題形式の問題に取り組ませ、習熟を図る。</p> <p>・季節の昆虫や植物について観察する単元では虫眼鏡の使い方を再確認し、からだのつくりに注目させながら観察を行うようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○影と太陽の位置関係の読み取りや、温度計の正しい使い方、日なたと日陰の温度の変化については市の平均を上回っている。</p> <p>●影の動く様子や太陽の位置を方角で表すことにおいては市の平均を下回っている。特に太陽の位置を方角で表す問題では市の回答率も低く、全体的に課題である。</p>	<p>・様々な出題方法、図の示され方などを問題文から正確に読み取る読解力を向上させていきたい。</p> <p>・方位を使って表す等理科の以外の教科でも必要になってくる力をつけていく必要がある。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は、約95%近くになっており、ほとんどの児童が宿題に前向きに取り組むことができている。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答の割合は、85.6%で県の平均と比べて、4ポイント高い。授業の中で意欲を高めたり問いをもたせたりするための導入や課題、活動の工夫に取り組んできた成果が表れ、学習に前向きに楽しく取り組むことができている。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」と回答した児童の割合は、81.6%で多くの児童が肯定的に回答している。授業の中でめあてをもって授業に取り組むことができている。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。」と回答した児童の割合は、63.2%で県の平均と比べて10.6ポイント低い。分からないままにせず、質問をしたり話し合ったりすることができる時間の確保や雰囲気づくりに努めていく。

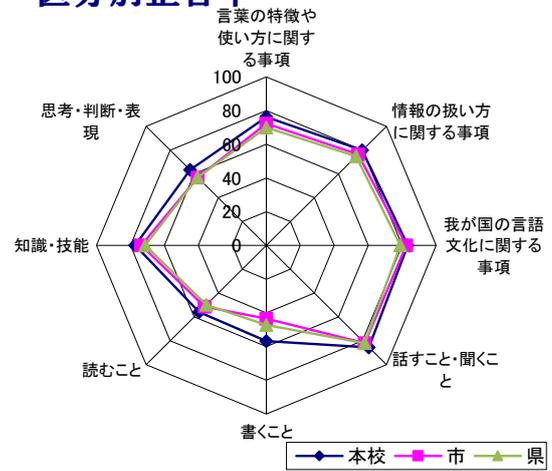
●「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の回答が、58.4%で県平均より15.4ポイント下回っている。「学習塾に通っている児童の割合は、76.8%で多いが、休みの日に学習に取り組む割合が8.8%で低い。自主学習を自分で考えて、家で進める習慣が付けられるような宿題の出し方や手立てを工夫していく。

●「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」の肯定的回答は71.2%で、県平均より9.8ポイント低い。「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定的回答は55.2%で、県の平均より10.2ポイント低い。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は68%と県の平均を8.3ポイント下回っている。クラスの決まりを自分たちで考えるような時間や認め合う時間を意識的に作ったり、学級活動を多く行ったりするなど、関わり合う時間を作るように工夫していく。

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.2	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	79.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	83.3	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	85.5	81.9	82.0
	書くこと	56.8	43.5	47.2
	読むこと	55.9	51.4	49.8
観点	知識・技能	77.2	73.6	71.3
	思考・判断・表現	63.5	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

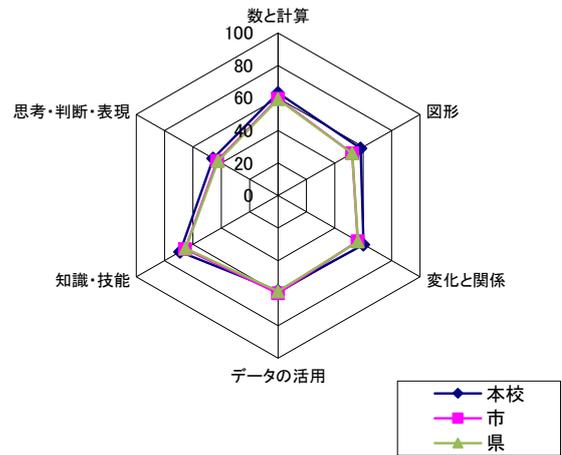
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○漢字の読み書きについて、平均正答率を上回っているものがほとんどだが、設問によっては下回るものがあった。漢字オリンピックや50問テストなど、既習漢字の定着に向けた取組の成果だと考えられる。</p> <p>●連用修飾語については、10.6%と県や市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・漢字オリンピックや50問テスト、小テストなど既習漢字を確実に習得する取組を継続させると同時に、日常の中で児童が文章を書くときには、意識的に漢字を使うことができるよう、日頃から指導していく。</p> <p>・文の中の主語・述語を明確にしなが、読んだり書いたりすることを通して文の構成に着目させることで、修飾語についての理解が深まるようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○漢字辞典の使い方を理解し、調べ方として適するものを選ぶ問題では、市や県の平均をやや上回っている。</p>	<p>・日頃から、漢字辞典や国語辞典で調べる習慣を付けさせるようにし、辞典を使う機会を増やすようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市や県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○ことわざについての問題では、平均正答率は、市や県の平均をやや上回っており、理解している児童が多い。</p>	<p>・我が国の言語文化に親しみがもてるように読書と関連付けるなど指導していく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○話し合いの内容を聞き取る問題について、話し手が伝えたいことの内容を捉えることや、話し手の工夫を捉える問題で、それぞれ平均正答率がそれぞれ約85%と高い。</p> <p>●意見の共通点に着目して、司会者の発言に適する内容を答える問題では、県や市の平均正答率を上回っているが、自分の考えをまとめて話すことは苦手な傾向がある。</p>	<p>・意見を述べるときに、相手を意識して分かりやすい伝え方を工夫したり、理由を付けて話したりすることを継続して指導する。</p> <p>・理由や事例を挙げながら自分の考えがまとめられるよう、話し合い活動を行う前には、児童は十分に考える時間を確保する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市や県の平均を大きく上回っている。</p> <p>○指定された条件で文章を書く問題の平均正答率は市や県の平均を15ポイント上回っており、文章を書くことに慣れている児童が多い。</p> <p>●指定された条件で文章を書くことはできるが、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことには課題がある。</p>	<p>・学習のまとめや振り返りを通して、自分の考えをまとめる活動を積み重ねることにより、自信をもって文章を書くことができるようにする。</p> <p>・伝えたい内容について、どのように段落を分けて文章にしたらいかを具体的に教師が例示するとともに、事実と自分の考えを分けて書くことができるよう、文章の構成について、きちんと整理してから書くよう指導していく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市や県の平均をやや上回っている。</p> <p>○説明文の内容を読み取る問題において、段落相互の関係を捉える問題では、平均正答率が県を上回っており、段落の内容はよく理解できている。</p> <p>●物語文での登場人物の性格について答える問題では、平均正答率が県より下回った。登場人物の性格や気持ちを具体的に想像することに課題が見られる。</p>	<p>・読書の時間を充実させ、様々な種類の文章を読む機会を増やすようにする。</p> <p>・物語文について、叙述を根拠にして、登場人物の性格や気持ちを想像しながら捉える練習をすることで、心情や人物の性格等を正しく理解できるようにする。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.1	59.7	59.2
	図形	58.0	52.1	52.1
	変化と関係	60.2	56.1	56.3
	データの活用	58.7	60.1	58.9
観点	知識・技能	69.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	45.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

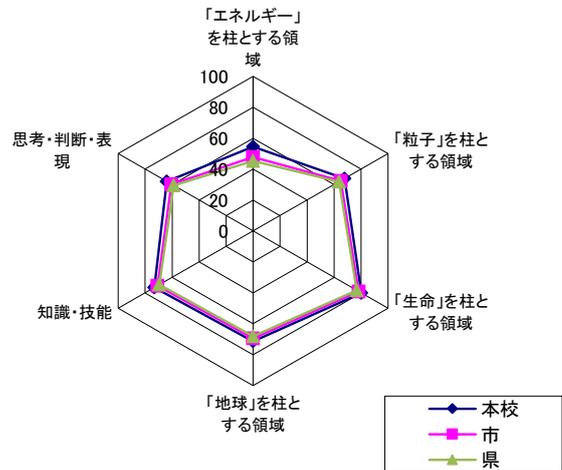
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○大きな数や小数のしくみや基礎的な計算の習得はよくできている。計算ドリルやタブレットのAIドリルの活用した反復学習の成果であると考えられる。</p> <p>●買い物の場面など状況を読み取った上で正しい式を選択することには課題が見られる。</p>	<p>・今後も朝の学習や家庭学習等で、基礎的な計算の力を高めることができるように反復学習を継続していく。基礎的な計算を生かして、発展的な問題につなげるように支援していく。</p> <p>・具体的な場面の状況や文章を読み取ることに課題が見られるので、問題を読む力を高める必要がある。また、生活経験を想起させながら学習に取り組むなどの工夫が求められる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○角度や面積の正しい求め方、作図の仕方等の理解はよくできている。前学年での既習事項を振り返りながら、三角定規や分度器等の正しい使い方を丁寧に指導してきた成果であると考えられる。</p> <p>●身近なものの面積に合う単位や単位同士の関係の理解は正答率は半数以下であり、課題が見られる。</p>	<p>・今後も三角定規や分度器などを活用を進んで行うことで、様々な図形を正確に作図することができるように支援していく。</p> <p>・単位の理解はできているものの、身近なものとの結び付けが不十分であると考えられるため、身近な生活を想起させたり、具体物を活用したりすることで、実感を伴った学びにつなげたい。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○倍で表された数量関係の場面を正しく表したテープ図を選択したり、値上がり割合を割合で求めることがよくできている。図や表、式などを生かして数量の関係について考えたり、それらを関連付けて説明し合ったりする学習に取り組んできた成果であると考えられる。</p> <p>●伴って変わる数量の表の読み取りに課題が見られる。</p>	<p>・算数的な見方・考え方の理解を深めるために、今後も生活場面と結び付けながら図や表の読み取りを行っていく。</p> <p>・伴って変わる数量の表を読み取ることに関しては、表の見方の習得が不十分であると考えられるので、着目すべきポイントや2つの数量の比べ方を提示するなど、表の読み取り方を理解できるような工夫が考えられる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○書かれている文章を読み、条件にあてはまる表の部分を選ぶ設問では、平均正答率が8割であり、基本的な表の活用は理解できていると考えられる。</p> <p>●2つの条件に当てはまる人数を答える設問では、平均正答率が3割であるとともに、無回答率も約3割近く、複数条件を読み取る活用問題に課題が見られる。</p>	<p>・表やデータの基本的な読み取りは理解できていると考えられるが、活用力を身に付けるため、様々な場面や条件をもとに表を作成したり、表を読み取ったりする経験を積んでいく。</p> <p>・二次元表の正しい読み取りや理解が不十分であると考えられるため、基礎的な読み取りの定着を図るとともに、文章問題やデータの活用等の応用問題に取り組んでいくことで、問題に対する抵抗感も減らしていきたい。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	54.5	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	67.8	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	80.2	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	71.4	69.5	68.1
観点	知識・技能	73.2	70.8	69.5
	思考・判断・表現	63.9	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と比べ、上回っている。</p> <p>○回路の名称やつなぎ方による電流の大きさの違いについて問う問題については、どちらも市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●簡易検流計の針のふれ方から分かることを問う問題について、平均正答率が33%と低く、無回答率は18%と高い。</p>	<p>・簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことを理解していない児童が多いことが考えられるため、実験時に電流計の使い方に加え、読み取り方の指導も繰り返し行っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○金属の体積の変化について問う問題については、市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●短答式や記述式の問題においては、平均正答率は市の平均は上回っているものの、無回答率も市の平均と比べて高い。</p>	<p>・実験結果については正しく理解しているが、結果から考えられることについて自分の言葉で表現することに課題がある児童が多いことが考えられる。そのため、学習のまとめの際には、児童自身がキーワードを選んでまとめたり、文章を穴埋めする方法でまとめたりする活動を取り入れ、自分の言葉で表現する力を高めていきたい。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○季節の変化や人の筋肉の様子についてなど、生活の中で身近なものが扱われる問題については、正答率が高く、無回答率はかなり低い。</p> <p>●サクラの様子がどのように変化するかを問う問題においては、正答率が63%と、他の「生命」を柱とする領域の問題の正答率と比べて低い。</p>	<p>・サクラの木は校庭には複数あるが、開花の時期がちょうど春休み中であるため、十分な観察活動が行えないことから、知識が定着しない児童がいると考えられる。そのため、映像資料などを活用して十分な観察活動を行い、サクラの様子の変化についての知識の定着を図っていきたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○砂の粒の大きさと水のしみこみやすさや水たまりのできやすさを問う問題については、どちらも市の平均正答率を上回っていて、無回答率も低い。</p> <p>●天気の良い決め方を問う問題については市の平均正答率を上回っているが、晴れの日の気温の変化の様子を選び、選んだ理由を答える問題(記述式)については、市の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・天気の決め方や変化についての知識は定着しているものの、その理由について自分の言葉で表現することに課題がある児童が多いことが考えられる。そのため、結果を基に根拠を示しながら考察したり友達に説明したりする活動を意図的に取り入れていく。</p>

宇都宮市立横川東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている」と回答した児童の肯定的割合は60%で、県の平均を7.8ポイント上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」と回答した児童の肯定的割合は75.7%で、県の平均を大きく上回っている。学習内容を事前に予習したり、繰り返し復習したりするなど、学習に対して前向きな姿勢が見られる。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」と回答した児童の肯定的割合は93.9%で、県の平均より9.8ポイント上回っている。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した児童の肯定的割合は88.7%で、県の平均より9.1ポイント上回っている。学習したことを受け身ではなく、主体的・能動的に捉えることで自ら問いを見出すことができている。今後も、児童の気付きや疑問を大切に教育活動を推進していきたい。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の肯定的割合は97.4%で、県の平均より3.2ポイント上回っている。学習内容と将来の仕事や生活を結び付けることで、学習に対する意欲や態度の向上に繋がっていると考えられる。今後もキャリア教育の視点を意識した教育活動に努めていきたい。

○「先生は、学習のことについてほめてくれている」と回答した児童の割合は60%で県の平均より7.7ポイント上回っている。児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達のよさを伝え合う活動を実施してきたことで自尊感情が高められている効果が現れていると考えられる。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」との質問に対して1時間以上と回答した児童は16.5%で県の平均より2.8ポイント下回っている。学校での読書時間を確保するとともに、「家読(うちどく)」の習慣化を進めるなど家庭と連携が大切だと考える。

●「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」と回答した児童の肯定的割合は44.4%で県の平均を9.5ポイント下回っている。日頃から、児童の学習意欲を引き出す努力をすることや難易度の高い問題を解けた達成感を与えさせたり、温かな声掛けをしたりしていきたい。

宇都宮市立横川東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・問題解決の見通しをもたせる活動の設定 ・自分の伸びや変化を自覚できる振り返り活動の実施 ・主体的・対話的で深い学びを実現するICTの効果的な活用	・「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」と答えた児童の割合は、4年生で85.6%、5年生で88.7%で県の平均を上回っている。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は、4年生で58.4%、5年生で78.2%で学年によって差がある。 ・「授業の中で、目標がしめされている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目では、4年生は約8割、5年生は約9割の児童が肯定的に回答している。
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(火・木・金曜日の15分間)の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施 ・AI型学習ドリルを活用した個に応じた指導の充実	・4年生、5年生の3教科の知識・技能の平均正答率は、市と比べてほぼ同じであった。 ・漢字の読み、基本的な計算については平均正答率も高く、習得できている。
・家庭学習の習慣化	・「家庭学習の手引き」の効果的な活用 ・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導	・「家で、学校の宿題をしている」と答えた児童の割合は、4年生で94.4%、5年生で97.4%と両学年ともに高い。しかし、「家で自分で計画を立てて、勉強している」と答えた児童の割合は、4年生で47.2%、5年生で70.4%と学年間の差が大きく開いた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを根拠を示して明確に話したり書いたりする問題や文章を基に内容や段落を捉える問題では、県の平均正答率よりも低いものがあった。	・文章を正確に読み取り、自分の考えの形成に生かす学習活動の工夫	・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ、全体での学び合いの場の設定の工夫 ・家庭学習の機会を活用した定期的な書く活動の充実